

地域を題材として地域で学ぶ

令和三年度は、公教育における教育カリキュラムの基準となる、新学習指導要領全面実施の年度となっております。

そこには、未来を生き抜く子どもたちを育てるための、教育の在り方について記されています。

これからは「学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有し、子どもたちに必要な教育をいかなる方法で行うかが明確にしながら、社会との連携・協力によりその実現を図っていく「社会に開かれた教育課程」の具現を目指すことが大切とされています。

三島中学校では、令和元年度より、この全面実施に向け、準備を進めて参りました。

新しい時代に必要となる資質・能力とは、どのようなものなのか、人口減少、超高齢化、

AI、ICT、ロボットと、時代が変わった、正解のわからない、予測不可能な時代だ、と言われても、それがどんな状態なのか、と初めは考えておりました。しかし、子どもたちの学校生活における活動が成り立たなくなる程の少子化があり、大規模災害やコロナ禍という予測不可能な、正解のわからない状況が舞い込んでくる現状があり、今では必要に迫られての学習となりつつあります。

令和元年度より、三島町教育委員会からご提案いただいた、三島町次世代の議会や、本校生徒が伝統的祭（桐陽祭）での総合的な学習発表等は、正にこの学習成果を発表する場として最適であり、子どもたちの学習の目標ともなる機会となっております。

この発表を含め発表に至るまでの学習の全てが、子どもたちが未

来を切り拓くのに必要な資質・能力を身につける学習となります。

教科の学習において論理的に考える力を身につけたり、ディベート学習において、立場で考え意見を述べる経験をしたりがありません。

また、教科の学習内容は、自分で考え意見をまとめるために必要な、まとまった知識となり、避難訓練や交通安全教室、森林教室や木工職業体験など、学校を離れて行う学習は、地域の状況を知り、地域のもつ課題を知り、未来に向けて解決すべき事を知る大切な学習となります。

そして、これらの学習に関わっていただいているのが、地域の方々です。子どもたちの学習が進み、中学生の目線ながらも、地域の現状と未来について、地域の方々と議論できる日がやって来ることを目指し、教育を進めて参ります。

今月の1枚



春の訪れ 4月15日(木)
桜の樹の下で 春待つ全校生、喜びの1枚



避難訓練 4/12 木村幸介 所長さん



交通教室 4/13 森 建介 巡査部長さん

期待を胸に! 中学校生活



[教育目標]
心豊かな生徒
自ら学ぶ生徒
たくましい生徒

桐の里だより

令和3年4月号
三島町立三島中学校
校長 関根宏房
ホームページURL
<https://nishima.fcs.ed.jp/>三島中学校



三島中学校入学式

四月六日(火)本校体育館におきまして、令和三年度の入学式を挙行いたしました。

四名の新入生が、これから始まる中学校生活への期待と希望を胸に、緊張しながらも元気に入学式に臨みました。

昨年度来のコロナ禍により、ご来賓の皆様をお迎えする式は叶いませんでしたが、現状で可能な最大限の形で、フレキシブルな新入生を迎えることができました。

四名の新入生は、中学校生活最後の一年を、世界中が混乱し、日本国内も全国一斉の臨時休校をはじめ、行事の中止や変更、不要不急の外出の自粛要請が出される等、我慢を強いられて過ごしてきた子どもたちです。世の中に対する不安も大きいものと推測されます。ましてや、環境が大きく変わる中学校への入学を迎えたわけでも、この不安定な社会情勢や大きな環境変化への不安を少しでも緩和できるよう、新二、三年生及び教職員一同、温かく迎えようと、入学式、そしてその後の新年度行事に取り組むこととしました。

勿論、二、三年生が、この社会情勢に関して無傷なわけではありません。しかし、自分たちの入学前後の混乱、行事の中止や変更による混乱の経験、そして、中学



生になったばかりの緊張した気持ちの経験が、後輩を思いやる気持ちに生かされる、絶好の機会になったことと思います。

新年度行事として学習・生活・生徒会の各オリエンテーションを行いました。中でも生徒会オリエンテーションでは、生徒会役員が中心となり、四名の新入生に楽しく、そして早く三島中学校のことを知ってもらおうと、工夫を凝らしました。三島中クイズでは、新入生を交えた学年縦割りのグループで、生徒会役員から出題されるクイズで一年生から三年生までが頭を抱え考える姿が見られるなど、全校生で楽しい時間を共有できました。